

特集.4 《松野町》

暮らしていいまち松野町

移住者から見る松野町のいいところ



デザイナー・
映像クリエイター
メルカドデザイン

市毛 友一郎

●世界一周を経て、松野町へ

ぼくが奥さんと二人、夫婦で松野町に移住したのは、今から4年前、2012年のことでした。そもそものきっかけは、勤めていた東京の会社を辞めたことです。が、会社を辞めてすぐに移住を考えたかという点、実はそうではありませんでした。退職後、何をしたいかいろいろ考えた。その結論として、ぼくら夫婦は、世界一周の旅をしました。

それは素晴らしい体験でした。約1年かけて、東南アジア、中国、インド、中東、北欧、東欧、そして中南米、最後にハワイと、計二十八か国を周遊しました。

安宿を泊まり歩く貧乏旅行ですが、最高に面白い旅でした。

1カ月かけて中国をまわったり、ベトナムで黒モン族の村にホームステイしたり、中東の食事がとても美味しいことを知ったり、南米の市場で羊肉を堪能したり。毎日が刺激的で、日本での価値観が一掃されるような経験が出来た旅でした。

「帰国したら、東京を離れ、どこか地方に移り住もう」

そう決めたのは、世界一周の旅の途中でした。

東京で生活をしていると、「東京を離れては暮らせない」そんな錯覚に陥りやすくなるのだと思います。そんなことはないのに、よく自身、長い間そう信じていました。しかし、会社を辞め、世界を旅して、いろんな国のいろんな人々の暮らしを目の当たりにして、ようやく、東京を離れて暮らすことも可能なんだという、当たり前のことに気づけたのです。東京を離れ、もっと自由に暮らそう。心からそうしたいと思い、ぼくらは移住を決めました。

その1年半後に、ぼくらは松野町への移住を実現するのですが、実は松野町には、たまたま立ち寄ったのです。親戚がいたわけでも、以前に来たことがあったわけでもなく、移住するまでは、縁もゆかりもない土地でした。

世界一周を終えたぼくらは、今度は移

住先を探す旅をしました。九州から瀬戸内海沿岸を車で巡る、車中泊の旅です。途中、綺麗な海や、風景の美しいところはたくさんありましたが、景色は綺麗でも、住んでみたいと思える場所には巡り合えないまま、四国に入りました。しまなみ海道から松山を経て、宇和島へ。宇和島の道の駅で、車中泊をした夜、連日の移動にそろそろ疲れも出てきて、このまま行き当たりばったりで探すには無理がある、仕切り直して出直そう、そう話し合って、いったん引き返すことに決めました。

松野町を訪れたのは、その翌日でした。どこかで入手したパンフレットで、滑床溪谷という気持ち良さそうところがあることを知り、疲れも癒せそうだし、帰り道がてら寄れそうだから、ちよつと行ってみよう、そんな感じでした。



滑床溪谷



松丸駅に設置された松野町全域イラストマップ(市毛さん制作)



ベトナムホームステイ
真中が奥さん

宇和島から滑床溪谷に行く道すがら、「この辺、良くない？」二人同時に、何か、ピンとくるものがありました。五月の初旬で、滑床溪谷へ向かう道は、田植えを終えたばかりの清々しい水田が広がっていました。

だんだん細くなる道の先に、まるで、もののけ姫の舞台のような森が現れます。それが、滑床溪谷でした。新緑の森は、清浄な空気に包まれ、溪流を流れる冷たい水に、ぼくらは、芯から癒されました。

「こんな場所の近くに住めたらいいねえ」

ついに、そう思える場所に巡り合ったのです。ところで、ここはどこだろう？

カーナビで調べて、今いるのが松野町という町だと知りました。

さあ！ 思い立ったが吉日です。ぼくらはそのまま勢いで松野町役場を訪ね、その日のうちに空家と、その家の大家さんを紹介して頂き、あれよあれよという間に、松野町がぼくらの移住候補地の筆頭になりました。それから一年半、よく考えて、仕事や引っ越しの準備をし、ぼくらは松野町へと移住しました。

●移住者から見る松野町のいいところ

ぼくらが移住先として、松野町を選んだその背景には、世界一周の旅での経験

があります。

世界一周で、初めの頃は、世界遺産や観光スポットを訪れていたのですが、旅が進むにつれ、よほどの場所じゃない限り、訪れようと思わなくなりました。なぜなら、観光客があまり訪れそうもない場所に行ったほうが、驚きや感動が大きいことがわかってきたからです。

ローカルな市場で、地元の人々のリアルな温かみに触れ、見たことも聞いたこともない料理（しかも安くて美味しい！）にありつけると、心底「ここに来てよかった！」と思えるのです。ぼくらが求めているのは、そういう種類の驚きと感動でした。雑誌やTVで観たことのある観光地に行っても、大して感動しないのです。ぼくらが、松野町にピンときた理由は、そういう経験の延長線上にあるように思えます。

松野町は、愛媛を代表する観光地ではないですが、えっ！こんなところに、こんなところがあるの？という驚きに満ちています。滑床溪谷や、奥内の棚田はその代表格ですが、移住して、実際にそこに暮らすと、観光で訪れるだけではなかなか巡りあえない、更に多くの感動に出会えます。（暮らしていいまち松野町、というわけです）

例えば、天然うなぎです。松野町を流れる広見川では、今でも天然うなぎ漁が盛んです。ぼくも昨年、近所の名人の方にご教授頂き、家のそばの川で天然うな

ぎを捕りました。自分で捕った天然うなぎを、自分で捌いて食べる。都会で暮らしてはまず出来ない体験です。

もうひとつ。松野町では、シーズンになるとホテルが見れます。1匹や2匹ではありません。数百から数千匹のホテルです。ぼくの家の近くでも、散歩で行ける距離の場所で、数百匹のホテルが舞う、幻想的な光景を見ることが出来ます。そんなにたくさんホテルを一度に見るのは、ぼくには産まれてはじめての経験でした。ところが、目の前にこんなに美しい光景があるのに、人が押し寄せるわけでもないのです。見に来ているのはぼくらだけ。完全に独り占めです。こんな贅沢があるでしょうか？

他にも、五ツ鹿踊りや牛鬼などの郷土芸能、神社に奉納される子ども相撲、ツガニを入れる独特なもちき、特産品の美味しい桃に、鹿肉のジビエなど、まだまだあります。四季の移ろいを日々感じられる近所の散歩、新緑や紅葉に彩られる家の前の山々、旬の時期にしか食べられない野菜、それ以外にも、松野の人にとっては当たり前すぎて、特別な価値はないけれど、ぼくら移住者にとっては、びつくりするようなことが、松野町には溢れています。

そういう環境の中で、日々の生活を送ることが出来る、贅沢。

ぼくらにとって、松野町での移住生活は、まさに「贅沢な暮らし」そのものです。